

2017 年度 甲南大学法科大学院入学試験問題

専門論文試験
民事訴訟法・刑事訴訟法

(120分)

受験についての注意

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはならない。
2. 問題は2ページである。印刷不鮮明、汚損等があれば申し出ること。
3. 解答用紙は民事訴訟法と刑事訴訟法各1枚である。解答用紙には裏面もあるので注意すること。
4. 解答は、該当する科目の解答用紙を使用すること。解答用紙を誤った場合、その答案は無効となる。
5. 答案は、横書きとする。
6. 答案は、実線内の番号に従って書き進めること。
7. 答案は、黒ボールペン（但し、フリクション等の消せるボールペンは不可）または黒インクの万年筆で記入すること。これら以外で記入された答案は、無効となる。
8. 答案を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1行の場合には横線で消して、その次に書き直すこと。
9. 下書きには、問題冊子の余白を適宜利用すること。
10. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

専門論文試験 民事訴訟法

【問題】

次の制度・概念について、説明しなさい。

- (1) 将来給付の訴え
- (2) 証明と疎明
- (3) 適時提出主義

専門論文試験 刑事訴訟法

【問題】

次の項目について、簡潔に説明しなさい（なお、判例を前提にしなさい。）。

- (1) ホテルの隣室内の薬物取引に関する会話を捜査機関が音声増幅器を使って壁越しに録音する捜査について。
- (2) 押収した覚せい剤を検察官が証拠調べ請求する段取りについて、弁護人が証拠とすることに反対した場合を想定したとき、どのようになるか。
- (3) 職務質問に伴う所持品検査で発見された覚せい剤の証拠能力を争いたいが、判断の基準と段取りについて。